

SOHOつちうらが始動

起業家6人が入居

自治体が支援施設

IT(情報通信技術)を活用した起業家を育成



IT(情報通信技術)を活用した起業家を育成

「SOHOつちうら」開所式で入居者6人を代表して抱負を述べる高橋さん(土浦市川口一丁目のモール505)

店舗対策を兼ねて事業化

入居が決まったのは、

総務、経理の受託、パソコンスクールなど▽つちうらネットプレス(高橋仁美社長) 地域ポータルサイトの運営、ホームページ作成など▽三協中国ビジネスのコンサルテーション▽同市富士崎の折田藤男さん(官公庁のシステム構築や運用支援▽ワールド翻訳サービス(英語、中国語、韓国語、独語などの翻訳、英文校閲、テプリライイト▽電脳部(河合通之社長) 竹炭を利用した環境改善や水質浄化の六人。市外は三人で、中国人留学生も一人いる。

開所式では助川弘之市長や中川清土浦商工会議所会頭らのあいさつがあった。入居する六人を紹介。入居者を代表して「つちうらネットプレス」の高橋仁美さん(四六)が「インターネットは苦手という人にも足を運んでももらい、接するお手伝いもしていきたい。土浦のまち全体が情報タウンになれば」と抱負を述べた。

高橋さんは今月いっぱい常総学院を退職。高校では国語を教えることもにチャリター部顧問も務めたが、「だんだんさびしくなる土浦のまちの活性化のため何かしたい」と昨年五月に会社を立ち上げた。

起業家らにブース貸し出し

「SOHOつちうら」開設



一般に開放されている共有スペース

SOHO(スマールオフィス・ホームオフィス)の事業者を支援、育成する施設「SOHOつちうら」(土浦市川口一)が3日、オープンした。同日、開所式があり、同市が、市内で起業や独

立を考えている人に対し、空き店舗を利用したブースを低料金で貸し出す試みで、応募した20人のうち、6人が選ばれた。この日、開所式があり、同市を紹介するホームページを運営し、ホームページの作成も請け負っている「つちうらネットプレス」の高橋仁美社長(46)が入居者を代表して、「訪れた人に情報収集の仕方を案内し、土浦市が情報科学の街として発展していくためのお手伝いをしたい」と抱負を語った。

入居者の事業内容はほかに、翻訳サービス、中国関連ビジネス、システム構築など。共有スペースは一般開放され、市内の情報が得られる。

H15.3.4(火) 毎日新聞

【須田桃子】